

カントリーサイドの地理教育

—— イングランドとウェールズのカントリーサイド・コード教育プログラムから ——

Geographical education and countryside code: the way to respect, protect and enjoy the countryside in England and Wales

橘 セ ツ

キーワード：英国（イングランドとウェールズ）、地理教育、カントリーサイド・コード、アクセス権、シティズンシップの教育

I はじめに

イングランドとウェールズの新しいカントリーサイド・コードが2004年7月に改定され公布された。カントリーサイド・コードとは、カントリーサイドを「尊重し、保全し、楽しむ」(respect・protect・enjoy)ために守らなければならないことを定めた法令である。

カントリーサイド・コードの前身であるカントリー・コードが、はじめてイングランドとウェールズで公布されたのは、1951年5月である。それは1949年に定められた「国立公園とカントリーサイドのアクセスに関する法律」(National Parks and Access to the Countryside Act)を受けて、国立公園委員会(National Parks Commission)が公布したものである。イングランドとウェールズでは、1950年代にあわせて10箇所の国立公園が制定された。¹⁾ 英国の国立公園は、その多くが私有地であり、羊や牛などの家畜の放牧地や採草地、あるいは耕作地として牧畜農業が営まれている土地でもある。カントリーサイドとは、カントリーサイドを訪れる人々のためのレクリエーションの空間であるだけでなく、カントリーサイドで生活する地域住民の生業のための生活空間でもある。

1951年にカントリー・コード／カントリーサイド・コードが制定されて以来、カントリーサイドで営まれる牧畜農業と、カントリーサイドを歩くという最も英国で人気のあるレクリエーションとのせめぎあうような両立を50年以上にわたって保つように努力されてきた。²⁾

本稿では、まず、新しいカントリーサイド・コードの内容を検討し、その広報の方法を概観する。次に、カントリーサイド・コード教育プログラムの教材の目的と内容について、特に、2000年に改定されたナショナル・カリキュラムの地理教育とシティズンシップの教育に焦点をあてて紹介する。最後に、カントリーサイドで検証される様々なシティズンシップの像と、ポスト生産主義時代を迎えて、新たな英国のカントリーサイド像を創造するためにどのような努力がされて

いるのかに触れて結びとする。

II カントリーサイド・コードのリーフレット

2004年に発行された新しいカントリーサイド・コードのリーフレットは、表紙の大きさがA 5サイズで、それを全部ひらくと、A 5サイズの6倍の大きさのほぼ正方形の一枚のポスターになるようにデザインされている。

裏表紙には、このカントリーサイド・コードが、カントリーサイド・エージェンシー (The Countryside Agency) とウェールズのカントリーサイド・カウンシル (Countryside Council for Wales) のパートナーシップで作成され、以下の団体に支援されていることが明記されている：

英国馬術協会 (British Horse Society)

カントリー・ランドとビジネス協会 (Country Land & Business Association)

環境・食糧・村落関連省 (Department for Environment, Food and Rural Affairs)

イングリッシュ・ネイチャー (English Nature) (2007年に改編され現在は、ナチュラル・イングランド (Natural England) となっている)

環境エージェンシー (Environment Agency)

イングランド森林業委員会 (Forestry Commission England)

地方政府協会 (Local Government Association)

ナショナル・ファーマーズ組合 (National Farmers' Union)

ナショナル・トラスト (National Trust)

陸地測量部 (Ordnance Survey)

プレーン・イングリッシュ・キャンペーン (Plain English Campaign)

王立野鳥保護協会 (Royal Society for the Protection of Birds)

ランブラーズ協会 (The Ramblers' Association)

表紙を飾るのは、『快適な生活』(Creature Comforts™)や「ウォレスとグルミット」(Wallace & Gromit) シリーズで有名な粘土で造形した動物たちが活躍するクレイアニメの作家ニック・パークの所属するプロダクション、アードマン・アニメーション社 (Aardman Animations) によって新しいカントリーサイド・コードのためにデザインされたキャラクターたちである。表紙には、耳をピンとたてて歯をみせて笑っている1匹の年老いた羊の番犬が前景右に配置され、5匹からなる白い仔羊の群れが木製の柵の手前、全体の中景に配置されている。キャラクターたちは皆こちらの方をむいているが、仔羊はお互いからだを寄せ合って様子をうかがっておどおどとしているように見える。

表紙の遠景には、なだらかな丘陵がひろがり、英国特有の生け垣に囲まれたパッチワークのよ

うな放牧地や採草地、刈り取られた後の耕作地からなるカントリーサイドの景観がひろがっている。右に見える耕作地では、刈り取られた後の麦わらが、機械によってロール状に束ねられている。それらロール状の麦わらは9つ描かれていて、これらは、後に、トラックによって家畜のねぐらのある牧舎の倉庫に運び込まれ、黒いビニールをかけられ、発酵させられ、サイレージ(silage)として加工され、家畜たちの冬の間の栄養のある餌にされるというプロセスを待っていると考えられる。この表紙に描かれているのは、現代の英国のカントリーサイドの生活に関する文化的景観の表象である。表紙の左下には、カントリーサイド・コードのロゴマークが「尊重する、保全する、楽しむ」のキャッチフレーズとともに記されている。

表紙からページを一枚めくると、左には、「カントリーサイド・コード：土地管理者へのアドバイス」(Country side Code: advice for land managers)として次のように見出しが記されている。お互い目を見合わせて様子をうかがう仔羊が5匹ページの右下方に描かれている：

カントリーサイド・コード：土地管理者へのアドバイス

カントリーサイドを訪れる人々は地域経済に重要な収入をもたらしてくれます。ほとんどの人々は、目に見えるルートをとることを好み、門のような適切なアクセスポイントを使用することを好みます。そして一般的には正しいことをしようとします。ただし、あなたの助けが必要です。

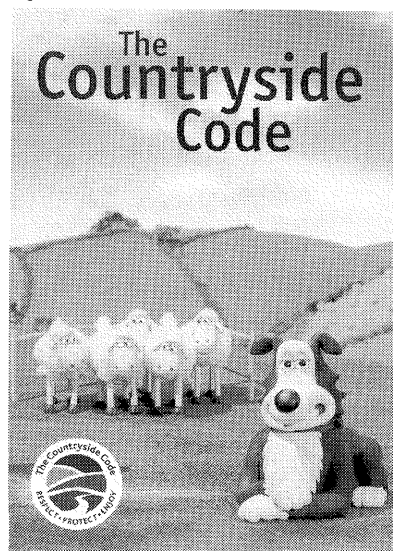


図1 カントリーサイド・コードのリーフレットの表紙のデザイン (CA and CCW, 2004)
Image © Aardman Animastion Ltd 2004

あなたの権利、責任や責務を知りましょう

- どこから人びとは、あなたの土地に入ることができるのでしょうか？
- 人びとがあなたの土地にいるあいだには、どのような規則が適応されるのでしょうか？
- 他の人びとがあなたの土地にいる間のあなたの権利と責任は何でしょうか？

訪問者が責任をもった行動をしやすくするように努めましょう。

- 人びとがあなたの土地に責任をもって、かつ、カントリーサイド・コードを守ってアクセスできるようにするためにはあなたが手助けできるのは何でしょうか？
- あなたは、助けやアドバイスをどのように受けられるのでしょうか？

訪問者の安全に関して考えられうる脅威を明確にしましょう。

- 人びとがあなたの土地にいる間の安全に対するあらゆるリスクを想定しましょう。そして、

あなたはそれらのリスクにたいしてどのように対処することができるのでしょうか？

その同じ見開きの右側のページには、「カントリーサイド・コード：一般の人々へのアドバイス」(Countryside Code: advice for the public)として次のように見出しが記されている。このページのデザインに関しては、下半分に、エリカあるいはヘザーの紫花の絨毯が遠景にひろがるムーアと呼ばれる荒地の中に放牧される2匹の馬が描かれている。このような景観は、ヨークシャーやランカシャーなどの北イングランドや北ウェールズの山岳地帯によく見られる。文字通り「嵐が丘」のように風が強いのがこのようなムーアランドの特徴で、放牧されている馬の顔の周りの毛並みやしっぽもユーモラスに左にたなびいている。これも、またイングランドやウェールズの生活にかかわる多様な文化的景観の表象の一部である。また、左下端に配置された少し苔の生えた石には、この土地が「オープン・アクセス」された土地であることを示す標識が赤色で描かれている。

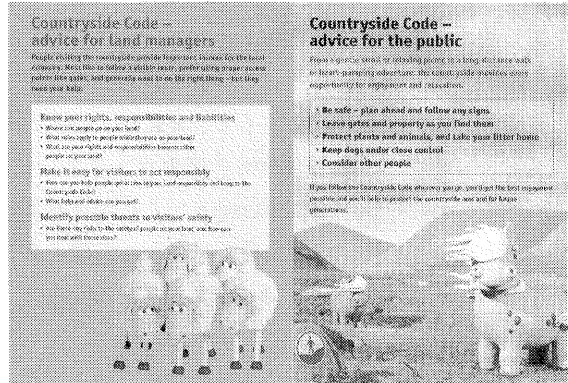


図2 カントリーサイド・コードのリーフレット：「土地管理者へのアドバイス」と「一般の人々へのアドバイス」が並置されている。(CA and CCW, 2004)
Image © Aardman Animastion Ltd 2004

カントリーサイド・コード：一般の人々へのアドバイス

穏やかな徘徊や心やすまるようなピクニックから長距離のウォーキングや心臓がときどきするような冒険まで、カントリーサイドは楽しみやリラクックスするためのあらゆる機会を与えてくれます。

- 安全に：前もって計画し、全ての標識にしたがうように。
- 門や土地などは、あなたが訪れる前の状態のままに戻しておくこと。
- 動植物を保護し、あなたのだしたゴミは家にもって帰りましょう。
- 飼い犬はあなたのそばに常に管理すること。
- 他の人びとがいるということに配慮しましょう。

もしあなたが、どこにいてもカントリーサイド・コードを守ることができたなら、あなたは得ることのできるなかで最高の楽しみを獲得できるでしょう。そして、あなたは、カントリーサイドのことを、現在と未来の世代にわたっても保全することを助けることになるのです。(CA and CCW, 2004)

そして、次に、見開きの右のページをめくると、「カントリーサイド・コード：土地管理者へのアドバイス」が、A5サイズが3面つながったレイアウトで現れる。先に述べた、質問形式の見出しに対して回答を与えるかたち土地管理者へのアドバイスが記されている。最新情報を検索するためのウェブサイトアドレスwww.countrysideaccess.gov.ukやわからないことがあったら問い合わせをすることのできる電話番号も記されている。

そのページを上下に開くと、A5×6倍のサイズの正方形のポスターが現れる。このポスターの真ん中には2羽のカモメが木製の門の上にとまっている図像がある。門の右の柱には黒地に白でえがかれたドングリのマークである「ナショナル・トレイル」の標識が描かれている。門の先には、緑の放牧地あるいは採草地の中になだらかに屈曲して続く遊歩道が見える。左側は急峻な崖になっており、海が見えるので、この遊歩道は、海岸線に沿って続いていることがわかる。崖の上には赤で「危険」と書いてある標識が見える。その手前には、3羽目のカモメが、捨てられ放置されたままの紙コップやファーストフードのハンバーガーの包み紙のゴミを困ったような目つきで見ている。そして、先の2羽の門の上にとまっているカモメは、次のようにしゃべっている。カモメの上方に飾り文字で、「あなたの自分のお家を世話するように、カントリーサイドを扱わなくっちゃいけないと私は考えるんだけどねえ・・・」と記されている。このポスターの下には、カントリーサイド・コードのロゴマークとともにカントリーサイド・コードについての最新の情報が入手できるカントリーサイド・コードのウェブアドレスwww.countrysideaccess.gov.ukが記されている。

そして、このウェブサイトを訪ねると、「イングランドのカントリーサイドへのあなたの入り口」(your gateway to England's countryside)と称してカントリーサイドのアクセスに関わる各種の団体にリンクしていて、カントリーサイドやカントリーサイド・コードに関して、必要な情報にすぐにアクセスできるようにデザインされている。このリーフレットでは、最新情報は、ウェブで確認してから、実際にカントリーサイドを訪れるように、カントリーサイド訪問者に勧めている。このリーフレット自体が、カントリーサイド・アクセスのウェブアドレスを見るようにと誘導するようにデザインされている。『快適な生活』の中の蜘蛛と蜘蛛の巣がイメージ・キャラクターとなっていて、蜘蛛と蠅が「何をするのか、どこへいくのか…それはウェブをみればいいよ」と勧めている。

Ⅲ 新しいカントリーサイド・コードの広報の方法

英国の地理学者のピーター・メリーマンは、1951年以来、カントリー・コード／カントリーサイド・コードを、広く国民に広報するためにどのようにメディアを使ってきたのか、各種の関係する団体の委員会などの会議でどのような議論を経て、それぞれの段階のカントリーサイド・コードを広報するために、どのようなリーフレットなどの出版物を発行したのかということを検証す

ることで、政府、直接には、国立公園委員会やカントリーサイド・コミッションやカントリーサイド・エージェンシーなどがカントリーサイドをどのような空間と考えてガヴァナンスしようとしたのか読み解いている。(Merriman, 2005)

それによると、2004年の新しいカントリーサイド・コードの広報には、2つの点で、以前の広報とは異なった特徴がある。

ひとつは、カントリーサイドをめぐる契約 (contract) を、カントリーサイドの利用者と管理者の両者に向かって示していることである。逆に言うと、2004年以前のカントリーサイド・コードでは、カントリーサイドを訪れる利用者に向かってのみ、正しい行動の規範や注意事項が示されていた。

2004年のカントリーサイド・コードのリーフレットには、「土地管理者へのアドバイス」として土地管理者としての権利や責任・責務がはっきりと明記されている。それを読んでもみると、例えば、カントリーサイドに捨てられるゴミの問題にしても、以前の広報では、カントリーサイドを訪れる人々にだけ、「ゴミは捨てないで家に持ち帰りましょう」と訴えていたのに対して、2004年のカントリーサイド・コードのリーフレットでは、土地管理者に対しても「ゴミは他のゴミを惹きつけます。あなたの管理する所有地内にある牧場の廃棄物のようなものを適切に処理しましょう。それが、他の人びとのゴミの不法投棄を思いとどまらせることにつながり、あなたの土地を訪れる訪問者のだしたゴミを彼らが責任をもって処理することを勧めることにつながるのです」(CA and CCW, 2004) と訴えかけている。

2つめは、この2004年の新しいカントリーサイド・コードに関する広報全てを、オスカー賞を受賞したニック・パーク監督作品『快適な生活』(Creature Comforts™) ブランドで有名な、英国のブリストルに本拠地をおくアードマン・アニメーション社にゆだねたことである。2002年にカントリーサイド・エージェンシーの会議で、「漫画とユーモア」(‘cartoons and humour’)によって、新しいカントリーサイド・コードの目指す精神を広報するのはよい方法論であることが議論された。(Merriman, 2005) 新しいカントリーサイド・コードの広報には、アードマン・アニメーション社のデザインした、クレイアニメのイメージが使われ、とぼけたユーモアのある動物のキャラクターたち、羊や番犬、馬やカモメたち、蜘蛛と蜘蛛の巣などを、インターネットのウェブサイトからリーフレットにいたるまで、あらゆるメディアに登場させた。これらの動物たちは、ひとめでそれだと理解できるローカルな特徴をもっている。犬は、ジョンという名前でロンドンの犬である。カモメはランカスターの海岸線のカモメである。馬はノーサンバーランド種である。これらの動物は、ウェールズなまりの言葉をしゃべるといふ。これらのキャラクターたちは、カントリーサイド・コードのリーフレットやテレビやウェブサイトで活躍するだけではなく、ポスターやしおりや、絵葉書などにも印刷され、学校や公民館などの公共の場所や、アウトドアショップに掲示され、配られた。新しいカントリーサイド・コードは、そのキャラクターたちとともに新聞や雑誌などで話題になることで、幅広い多くの層に浸透した。

このようなキャラクターを使った広報の特徴は、大人から子どもまで、広くの層に関心を持つ

て受け入れられたことであった。とくに、子どもや若い世代へのアピールと浸透効果は大きかったと考えられる。

Ⅳ カントリーサイド・コード教育プログラム

この新しいカントリーサイド・コードに関しては、初等・中等学校のエデュケーション現場でも教えることのできる教材が整えられている。³⁾『カントリーサイド・コード教育パック』(The Countryside Code Education Pack) (2005) は、「若い人びとのためにコードを紹介するためのガイド」(A guide to introducing the Code to young people) と副題が付けられている。この『カントリーサイド・コード教育パック』は、カントリーサイド・エージェンシーの牧畜業とカントリーサイド教育部 (Farming and Countryside Education (FACE)) が2005年に製作した。『カントリーサイド・コード教育パック』の教材は、www.countrysideaccess.gov.ukのウェブサイトでもPDF書類で入手することができるし、印刷されたものを郵送で送って欲しいと注文することもできる。英国内であれば、無料で『カントリーサイド・コード教育パック』を郵送してもらえ、容易に入手できるようなシステムになっている。

まず、ウェブを通じて『カントリーサイド・コード教育パック』を郵送して欲しいと注文すると、次のような中身のパッケージがアードマン・アニメーション社のデザインする動物キャラクターのデザインにいろどられた紙ファイルに入って届く：

「活動ガイドブック」：カントリーサイドへのフィールド・トリップの最中や前後のエデュケーション活動について考えるための豊富な資料。

「写真パック」：カントリーサイドについての議論やディベート、計画をサポートするためのカラー写真。

「カントリーサイド・コードのリーフレット」：新しいコードについての完全情報。

「掲示用ポスター」：1950年代のカントリー・コードを紹介するためにノーマン・テルウェル Norman Thelwellによって描かれた当時のポスターや、最新版の『快適な生活』版のポスター

「CD-ROM」：

- カリキュラム表
- 記録表各種のテンプレート
- 『快適な生活』のアニメーション
- 『カントリーサイドへの視点』 Countryside Viewsと題する10分間のフィルム。
- カントリーサイド・コードのリーフレットのPDF書類。

この教育パックの中の「活動ガイドブック」は、教育対象に応じて3種類、用意されている。初等教育用 (An activity guide for teachers: Primary Schools)、中等教育用 (An activity guide for teachers:

Secondary Schools)、グループ用 (An activity guide for Voluntary Group Leaders) の三種類である。

まず、これらの「活動ガイドブック」を見てみよう。まず、どの種類の「活動ガイドブック」にも、まえがきとして次のように記されている：

カントリーサイドは私たちの最大で最高の自然資源です。英国では、近年、ほとんどの人びとは、町や都市に住んでいます。しかし、そのような人びともカントリーサイドを訪ねることで、生活が豊かであるおいをおびることができるのです。このような屋外の訪問は、レジャーやスポーツ、そしてリラックスするためのものであるのかもしれませんが。また、教育の多くの局面においては、特に自然史、地質学、歴史などへの特別な興味をいだいている生徒さんたちにとっては、カントリーサイドは、それらを直接体験できるような機会を与えてくれる重要な資源でもあります。カントリーサイドは、ただの運動場ではありません。カントリーサイドは生きていて、絶えず変化する環境であり、そこでは、人びとは、労働して、生活して、土地を管理しているという実態があるのです。この環境は、すべての生きている生物と、岩石や水や空気といったような無生物とのつながりから構成されているのです。その両方ともあわせて、野性味にあふれるものから、注意深く人間の手で管理されたものまで、景観が豊かにタペストリーのように綴れ織られて創造されているのです。このカントリーサイド・コードは、私たち全ての人びとがカントリーサイドを尊重し、保全し、楽しむことを助けてくれるでしょう。(FACE, 2005)

これを読むと理解できるように、カントリーサイドは、人びと共有の貴重な資産であるとともに、教育のためにも活用できる重要な資源であるという視点が導入され、強調されている。

次に、イントロダクションとして、それぞれの対象に応じた「活動ガイドブック」の使用方法が記されている。初等教育用の「活動ガイドブック」では、最も丁寧に子どもがカントリーサイドを学校教育の中で訪れることの意義が説明されている：

初等教育を受ける年齢の子どもたちは、新しい経験や新しい環境を探索するのが大好きです。子ども時代の初期にカントリーサイドでの楽しい経験をたくさん積みめば積むほど、その子どもが成長して将来にわたっても生涯を通じて、カントリーサイドをめぐる環境を楽しみ尊重する態度が身についていきます。(FACE, 2005)

と、子どもをおとなに向かって成長するプロセスとしてとらえ、幼少期である今の段階で、カントリーサイドに対する正しい態度の総体であるカントリーサイド・コードをしっかりと教え、身につけることを促すことは、将来もカントリーサイドを愛して、尊重して、保全して、楽しむ未来の市民を育てることにつながるという理念が明確にされている。それが、将来にわたってもカ

ントリーサイドを保全するということにつながる事が強調されている。一方、子どもをカントリーサイドに引率する教師の立場も考えて次のように記されている：

カリキュラムの要求と安全対策の問題は、しばしば、学校教育の時間中にカントリーサイドを教育的訪問することを回避する理由にあげられます。しかしながら、カントリーサイドへ子どもたちを引率していくことは、学校内の運動場の中にいてはめったに得られないような学習の側面を探索することにつながります。国の初等教育方略である「初等教育期の学習と指導」(The Primary National Strategy: Learning and Teaching in the Primary Years (DfES 0526-2004G)) では、問題意識をもつこと、創造的思考、問題解決、議論の道筋、共感とコミュニケーションなどの分野の子どもの能力を高めることの必要性が強調されています。カントリーサイドを訪問することは、これらの能力を高めるための学習経験を直接に積むことができ、また、大事なことには、カントリーサイドは、それらをより楽しんで身につけられるような場所です。(FACE、2005)

カリキュラムの制約や生徒引率のリスクもあるが、カントリーサイドを子どもたちが訪問して、適切な指導者のもとでさまざまな学習をともなうフィールド・ワークを行うことによって得られるものの大きさを強調している。

V カントリーサイド・コード教育プログラムの「活動ガイドブック」とイングランドのナショナル・カリキュラム：地理教育とシティズンシップの教育に注目して

カントリーサイド・コード教育パックの中におさめられている「活動ガイドブック」は、次の6つの部分で構成されている。

1. 活動と教科に関する一覧表 (Activity and subject map)
2. フィールド活動 (Out and about)
3. 権利と責任 (Rights and responsibilities)
4. 創造性 (Creativity)
5. アクセス (Access)
6. 便利な連絡先とリンク (Useful contacts and links)

まず、「1. 活動と教科に関する一覧表」では、2000年に改定されたイングランドのナショナル・カリキュラムで定められた初等・中等学校教育で指導・学習する教科が、このカントリーサイド・コードの「活動ガイドブック」のどの活動に対応しているのか明確に位置づけられている。(図3)

カントリーサイドの地理教育

	Page No.	English	Maths	Science	Geography	History	Art	Music	ICT	Citizenship	PSHE	ESD	Thinking Skills
Out and About													
1 Signs	6			×	×				×				
2 Evaluations	7	×							×			×	
3 Litter-Count	7		×		×				×		×	×	
4 Species Hunt	8			×	×							×	
5 Litter-Bug	8			×								×	
6 Birds of a Feather	8			×								×	
7 Questionnaire	9				×				×	×	×	×	
8 Built to last	9				×	×						×	
9 Mapping the Facilities	9				×					×			
10 Worn Away	10		×		×				×			×	
11 Living Graph	10		×		×				×	×	×		
12 Golden Rules	11	×			×					×	×		
13 Diamond Nines for Changing places	12									×	×		×
Rights and Responsibilities													
1 Classification	14	×								×	×	×	×
2 Five Sets of Eyes	14	×								×	×	×	
3 Sort it Out	15	×								×	×	×	
4 Top Three	16									×	×	×	×
5 Stand Your Ground	16	×								×	×	×	×
6 Video Opinion Line	17	×								×		×	
Creativity													
1 Digital Designs	18						×		×				
2 Gateway	18	×											×
3 Turning Words to pictures	19	×					×						
4 Poster Points	19	×					×						
5 Posters for the Present	19	×					×		×				
6 Trip Timeline	20			×	×	×	×						
7 Natural Music	20							×	×				
8 Express Yourself	21						×		×				
9 Performance in the Park	21							×	×				
10 Recording Times	21								×				
11 Total Recall	21	×											×
Access													
1 A Question of Balance	23	×								×	×	×	
2 Roam or Moan?	24				×					×	×	×	
3 Speaking Your Mind	24	×			×						×	×	

A curriculum map can be found on the Countryside Code section of the website www.countrysideaccess.gov.uk

図3 カントリーサイド・コード教育プログラムの「活動ガイドブック」の活動とイングランドのナショナル・カリキュラムで定められた教科の対応一覧表

この一覧表にあるイングランドのナショナル・カリキュラムで定められている初等・中等学校教育で指導・学習する教科とは、英語(English)、算数(Maths)、科学(Science)、地理(Geography)、歴史(History)、美術(Art)、音楽(Music)の他にも、ICT、Citizenship、PSHE、ESD、Thinking Skillsといった従来の教科の枠に収まりきれないような現代社会をとりまく状況をよく理解して、よりよく生きるための力を養うようなイングランドの新しいナショナル・カリキュラムに独特の教科がある。これらについて、順番に見ていくことにしよう。

ICTとは、Information and Communication Technologyのことで、情報とコミュニケーションに関する技術を習得することを目指す科目である。従来はIT教育と呼ばれていた科目であるが、現在では、教育現場では、インターネットなどのウェブを使用して適切に情報にアクセスし、パソコンを使用して文書を作成するようなIT技術を養うだけでなく、そのような情報技術を使いこなして、よりよい人間関係を築くようなコミュニケーションの技術にも教育の重点がおかれている。

シティズンシップ(Citizenship)とは、市民あるいは市民性という意味である。シティズンシップの教育とは、1997年5月から2007年5月まで10年間続いた英国労働党のトニー・ブレア首相の政権時代に行われた教育改革のひとつの目玉のようなものであり、2002年9月からイングランドの全ての中等教育で指導を義務化された新しい科目である。『イギリスの教育改革と日本』(2002)を著した佐貫浩は、シティズンシップの教育に関して「日本的に言えば公民教育ということになるが「公民科」の教育というよりは「市民を育てる民主主義と政治の教育」といったほうがニュアンス的に近いと思われる」(佐貫、2002：p.169-170)と述べている。1997年にロンドン大学のクリック(Bernard Crick)教授は、シティズンシップの教育を強化する方策を諮問され、研究グループが発足した。この報告がクリック・レポートとして公表された。このクリック・レポートを紹介した佐貫によると：

シティズンシップのキー概念：「民主主義と独裁」「協同と葛藤」「平等と格差」「公正、正義、合法性、規則、法と人権」「自由と秩序」「個人とコミュニティ」「権力と権威」「権利と責任」

シティズンシップの「価値」：「人間の尊厳と平等性への確信」「寛容の実践」「討論と証拠の光の下で、自己の見解や態度を変えていくことへの開かれた積極性」「機会の平等やジェンダーの平等への関与」「行動的シティズンシップへの関与」「人権への関心」「環境への関心」等々

シティズンシップの「スキル」：「道理にかなった主張を書いたり話したりできる能力」「他者と協同し、効果的に働く力」「他者の視角や経験を評価し考慮する能力」「他者の視点に対する寛容の能力」「問題解決的なアプローチを展開する能力」「目の前に提出された証拠に対する批判的接近方法と新しい証拠を発見する能力」「社会的、道徳的、政治的な状態や挑戦に対して、識別し、応答し、影響を与える能力」等々(佐貫、2002：p.171)

である。さらに、このシティズンシップの教育の科目は独立した教科とはならず、他の学科の科目を指導・学習する中に、シティズンシップの理念を教育することが定められている。これに関して、佐貫は次のような危惧を抱いている：

セカンダリー・スクールでは総授業数の5%をこれに当てることが法的に規定されるが、独立した教科にはならず、歴史や英語（国語）、地理、あるいは地域活動等々に統合されて実施されることになるために、曖昧で、学校の適当な「作文」（いわばごまかしの報告）でその5%が生み出されてしまう可能性もあること。（佐貫、2002：p177）

しかしながら、このようにシティズンシップの教育が中等教育で義務化される中で、従来の、歴史、英語そして地理のような科目でも、ナショナル・カリキュラムでは、シティズンシップの教育的視点が入るように変化してきている。

例えば、最新のイングランドのナショナル・カリキュラムの地理学をみても、「まえがき」で、2002年9月にシティズンシップの教育が中等教育で義務化されることが、大きな変化として明記されている。地理学として指導・学習しなくてはならない「知識、スキル、理解」の内容とともに、「地理学を通してシティズンシップの教育を推進する」(Promoting citizenship through geography) という見出しのもとに、地理学はシティズンシップの教育を推進するにあたって重大な役割を担うことができると記されている。

このようなシティズンシップの教育の視点をもりこんだ教育資源としても、カントリーサイドをフィールド・ワークで訪問して、カントリーサイド・コード教育プログラムの「活動ガイドブック」の中にあるカントリーサイドにおける人びとの権利や責任、アクセス権の問題などについて議論するようなカントリーサイド・コードをめぐる教育と教材は有効であると考えられる。

他にも、イングランドのナショナル・カリキュラムで初等・中等教育で指導・学習される科目は、PSHEと頭文字のアルファベットをとって略して呼ばれる、「人と社会、健康の教育」(Personal, Social and Health Education)や、同じくESDと呼ばれる、「持続可能性のための環境教育」(Education for Sustainable Development)⁴⁾や、Thinking Skillと呼ばれる、考えるスキルを養うような科目もある。特に、「持続可能な環境教育(ESD)」の視点からは、カントリーサイドの文化的景観をどのように、将来にわたっても持続可能的に管理するのかという明確な視点をもったカントリーサイド・コードについて教育プログラムの教材を利用して学習することは、有効である。

VI おわりに

(i) カントリーサイドで検証されるシティズンシップの像

最近の地理学では、カントリーサイドにおける人々のレジャーやレクリエーションなどの実践のありかたを通してさまざまなシティズンシップの像が描き出されることにも注目して研究がす

すめられている。

英国の地理学者デイヴィッド・マットレスの一連の研究では、20世紀以降の英国のカントリーサイドという空間を現代のイングランドらしさ（イングリッシュネス）が形成され、市民としての行動のモラルや秩序が試されてきた場所として多角的にとらえている。彼によると、善き市民像あるいは悪い市民像は、カントリーサイドにかかわる人々の実践活動や行動の仕方の中にこそ現れてくるものとして分析される。カントリーサイドの風景や景観に注目し、カントリーサイド保全主義者たちの「正しい生活の技術」（‘art of right living’）という言説に耳を傾けると、そこでは、その土地特有のローカルな建築様式から切り離されたような醜い建築やレジャー施設、騒音やゴミは、反モラル的な風景として退けられる一方、太陽のもと調和と健全を志向する一連の行動こそがカントリーサイドにふさわしいとされてきたという。また、マットレスは、カントリーサイドで行われるレジャーの文化を3つの側面、つまり、知的、精神的（スピリチュアル的）、肉体的な側面を通じてより広い文化的活動にかかわる領域として分析した。この3つの側面、知的、精神的、肉体的運動を通じてカントリーサイドでのレジャーは、市民としての「全人格的な人をつくる」ことに関わってきたと論じている。（Matless, 1997；1998；2000）

（ii）ポスト生産主義時代の英国のカントリーサイド

現在、英国の農用地が国土面積に対して占める割合は、69.8%と高くそのうち耕作地が約3割、永年草地（採草地や牧草地）が、約7割を占める。2002年のイングランドでは、農業就業人口が1.7%でEUでは最低であり、農業の大規模化・効率化がEUの中でも最も進んでいる。⁵¹ 小規模な牧畜・農業の生業はたちいなくなり、大規模化した農業・牧畜業に合併吸収された。農業のあり方が変化するとともに農業に関する景観も大きく変化した。小規模な農家からなる村落には、荒れ果ててしまったものもある。

しかし、特に1990年代以降、このような困窮したカントリーサイドを見直す動きが顕著となった。それは、カントリーサイド回帰の運動であり、カントリーサイド再生、農村再生（rural regeneration）の動きでもあった。農村のコミュニティを主体に、政府と各種の団体がパートナーシップを組んで再生計画に応じて補助金が投入された。（中島、2005）（青木他、2006）

カントリーサイドに牧畜農業の生産の場としての役割よりも、都市の住民が自然の中でくつろげるような安らぎの場所が求められた。これは、ルーラル・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの新たな動きであった。この一連の動きは、ポスト生産主義時代のカントリーサイドとしての新たな動きだととらえられる。

カントリーサイドを対象としたツーリズムが浸透するにつれ、カントリーサイドでの楽しみ方を指南するようなガイドブックが多く刊行された。自然の生物や景観が観察できるネイチャートレイルのガイドブック、一日、あるいは半日のカントリーサイドのウォーキングをするとちょうどのを潤したい頃にバブやティールームに到着するというパブトレイルやティートレイルのガイドブックなどである。都市民が、カントリーサイドの空気を思い切り吸ってリフレッシュする

ための場所がカントリーサイドに求められている。(青木他、2006)(山崎他、1993)(横山、2006)

このようにカントリーサイドを訪れる人々のカントリーサイドへのアクセスをより保証することが、このようなポスト生産主義時代のカントリーサイドの保全や管理にとって重要であることが再認識された。

このような時代の文脈の中で、公布され、実施されたのが本稿で考察した2004年の新しいカントリーサイド・コードであった。

その後も、より広くカントリーサイドへのアクセスを充実し保証するための新しいアクセス権に関する法律がイングランドにおいて段階的に整備されつつあったが、2005年10月31日に完成した。これは、2000年のカントリーサイド通行権法(The Countryside and Rights of Way Act 2000 (CROW))をさらに充実させたものである。この2005年に完備された新しいカントリーサイド・アクセス権によるとイングランドのカントリーサイドにおいて人々にアクセス権が保証された('open access')土地は940,000ヘクタールにものぼった。これはイングランド全体の7%にあたる。カントリーサイド・エージェンシーのLandscape Access Recreationの製作したリーフレットによると、この2005年10月31日のことを「この日は、全てのカントリーサイド利用者にとって歴史的な日付となる。この新しい権利は全ての人々に アクセス・ランド('access land')としてあらかじめ地図に示された土地に関して、指定された遊歩道に従うことなく、自由に歩き回ることのできる機会を与えるのである。」と記されている。英国の陸地測量部が製作している地形図であるOSマップ(Ordnance Survey Map)は、この新しいアクセス権の設定に伴ってアクセスできる土地が明記された版に2005年以降改訂されている。このようにカントリーサイドのアクセス権をより広く保証し、より充実させることは、カントリーサイドを適切に整備・管理することであり、国民の生活の質(quality of life)を高めるということにつながるという議論からも推進されている。

注)

- 1) 1951年には、レイク・ディストリクト、ピーク・ディストリクト、ダートムーア、スノドニア国立公園が制定され、1952年には、ペンブロックシャー・コースト、ノース・ヨークシャー・ムーア、1954年にはエックスムーア、ヨークシャー・デールズ、1956年にはノーサンバーランド、そして1957年にはブレコン・ビーコン国立公園が制定された。
- 2) カントリーサイドへのアクセスの歴史については、(平松、1999; 2002)、(Darby, 2000)、(Ramm, 2006)、(Revill and Watkins, 1996)、(Taylor, 1997)などが詳しい。
- 3) イングランドの義務教育は、初等教育と中等教育である。イングランドのナショナル・カリキュラムによると、初等(プライマリー)教育は5歳から11歳までの年齢の子どもたちが対象であり、中等(セカンダリー)教育は、11歳から16歳までの子どもたちが対象である。
- 4) 2002年の第57回国連総会において、2005年からの10年を「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決議されたことに基づいて進められている、全世界的規模の環境教育プロジェクトである。詳細は、文部科学省のホームページでも閲覧できる。

www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/index.htm (2007年 9月30日検索)

5) データは、農林水産省のホームページの海外農業情報による。

www.maff.go.jp/kaigai/gaikyo/f_z_02uk.htm (2007年10月1日検索)

参考文献

青木辰司、小山善彦、バーナード・レイン (2006)『持続可能なグリーン・ツーリズム：英国に学ぶ実践的農村再生』丸善株式会社

ウィーナ, J マーティン (原剛訳) (1984)『英国産業精神の衰退：文化史的接近』勁草書房

佐貫 浩 (2002)『イギリスの教育改革と日本』高文研

清田夏代 (2005)『現代イギリスの教育行政改革』勁草書房

中島恵理 (2005)『英国の持続可能な地域づくり：パートナーシップとローカリゼーション』学芸出版社

中島俊郎 (2007)『イギリス的風景：教養の旅から感性の旅へ』NTT出版

中島直子 (2005)『オクタヴィア・ヒルのオープン・スペース運動：その思想と活動』古今書院

平松 紘 (1999)『イギリス緑の庶民物語：もうひとつの自然環境保全史』明石書店

平松 紘 (2002)『ウォーキング大国イギリス：フットパスを歩きながら自然を楽しむ』明石書店

ニュービー, ハワード (生源寺真一監訳) (1999)『英国のカントリーサイド：幻想と現実』日本コンピュータ情報

山口二郎 (2005)『ブレイ時代のイギリス』岩波新書

山崎光博、小山善彦、大島順子 (1993)『グリーン・ツーリズム』家の光協会

横山秀司 (2006)『観光のための環境景観学：真のグリーン・ツーリズムにむけて』古今書院

Countryside Agency and Countryside Council for Wales (CA and CCW) (2004) *The Countryside code*.
(www.countrysideaccess.gov.uk 2007年 7月 31 日検索)

Countryside Commission, *Areas of outstanding national beauty: a policy statement 1991*.

The National Curriculum for England, Key stage 1-3, Geography (www.nc.uk.net)

Darby, Wendy Joy (2000) *Landscape and Identity: geographies of Nation and class in England*. Berg Oxford.

Driver, Felix (1988) 'Moral Geographies: social science and the urban environment in mid-nineteenth-century England' (275-287) *The Transactions of the Institute of British Geographers (New Series)* 13-3.

Farming and Countryside Education (FACE)(2005) *The Countryside Code Education Pack*

Farming and Countryside Education (FACE)(2005) *An Activity Guide for teachers : Primary Schools*

Farming and Countryside Education (FACE)(2005) *An Activity Guide for teachers : Secondary Schools*

Farming and Countryside Education (FACE)(2005) *An Activity Guide for Voluntary Group Leaders*

Fish, Robert (2005) 'Mobile viewers: media producers and the televisual tourist' (119-134) in Crouch,

- David; Jackson, Rhona; and Thompson, Felix (2005) *The Media and the Tourist Imagination: converging cultures*. Routledge. London.
- Kinsman, Phill (1995) 'Landscape, race and national identity: the photography of Ingrid Pollard.' *Area*, 27, 300-10.
- Matless, David (1997) 'Moral geographies of English landscape' (141-155) *Landscape Research* 22-2.
- Matless, David (1998) *Landscape and Englishness*. Reaktion Books. London.
- Matless, David (2000) 'Action and noise over a hundred years: the making of a nature region.' (141-165) *Body & Society* Volume6 Numbers3-4 (November 2000) Sage Publications.
- Matless, David; Merchant, Paul; and Watkins, Charles (2005) 'Animal landscapes: otters and wildfowl in England 1945-1970' (191-205) *The Transactions of the Institute of British Geographers (New Series)* 30-2.
- Merriman, Peter (2005) '“Respect the life of the countryside” : the Country Code, government and the conduct of visitors to the countryside in post-war England and Wales' (336-350) *The Transactions of the Institute of British Geographers (New Series)* 30-3.
- Ramm, Dave (2006) *The secrets of countryside Access: rambling for Pleasure*. The East Berkshire Ramblers' Association Group.
- Revill, George and Watkins, Charles (1996) 'Educated Access: Interpreting Forestry Commission Forest Park Guides' (100-128) in Watkins Eds. *Rights of Way: Policy, Culture and Management*. Pinter, London.
- Taylor, Harvey (1997) *A claim on the countryside: a history of the British Outdoor Movement*. Keele University Press.